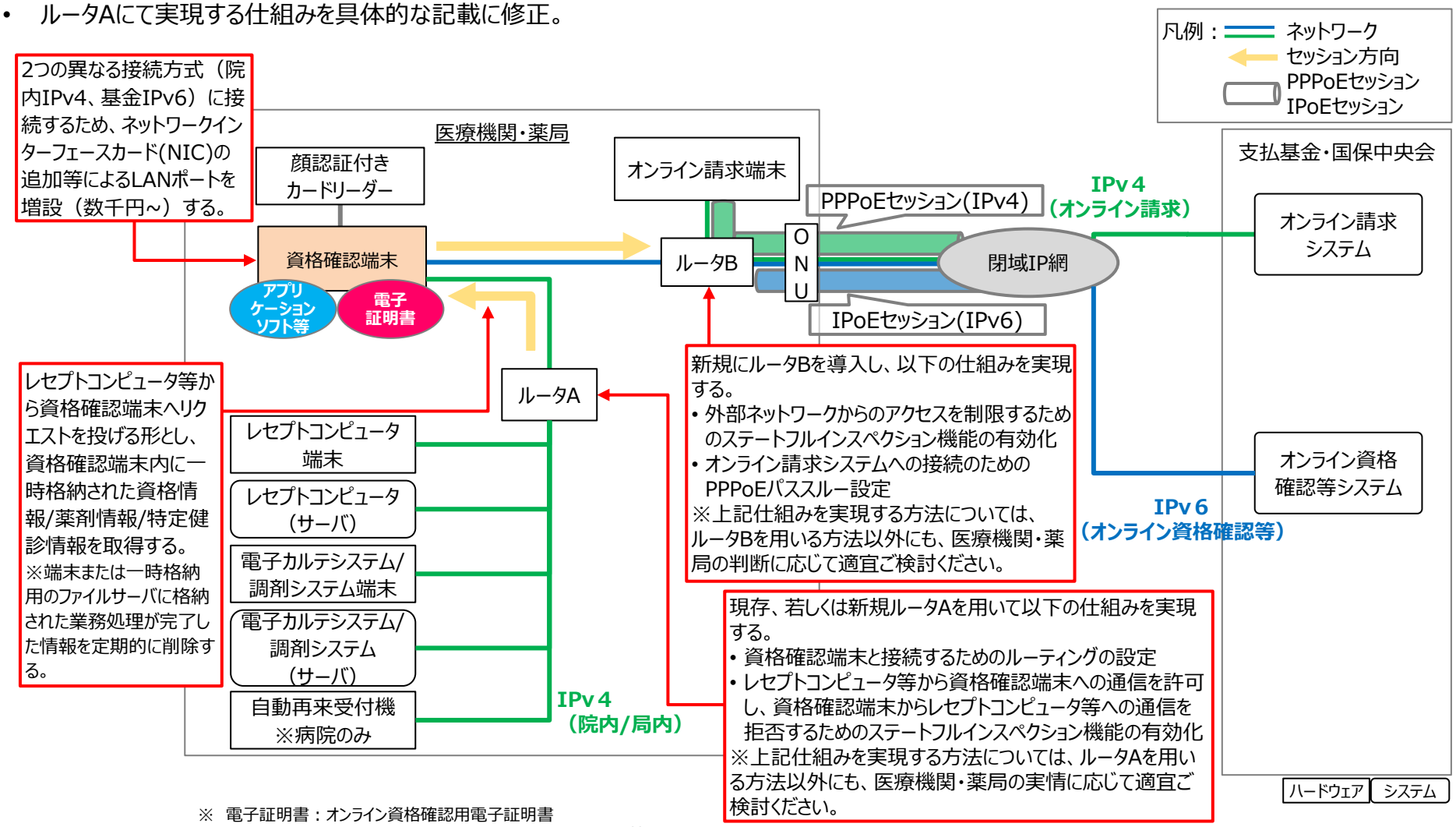
医療機関・薬局への導入におけるオンライン資格確認等システムとの接続に係るネットワーク連携のパターンの参考例

はじめに

- 医療機関等ONS等での問い合わせ傾向を踏まえて、医療機関・薬局への導入におけるオンライン資格確認等システムとの接続に係るネットワーク連携のパターンの参考例の整理を行いました。また、レセプトコンピュータ等の機能を資格確認端末に搭載（もしくはレセプトコンピュータ等端末にアプリケーションソフト等を搭載）する連携パターン例も示します。
- なお、医療機関・薬局への導入に当たっては、連携パターンを参考の上、医療機関・薬局にて「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン第５版」に準拠し、必要なセキュリティ対策を行ってください。

○導入後想定：基本的な構成例（資格確認端末が1台もしくは複数台のケース）

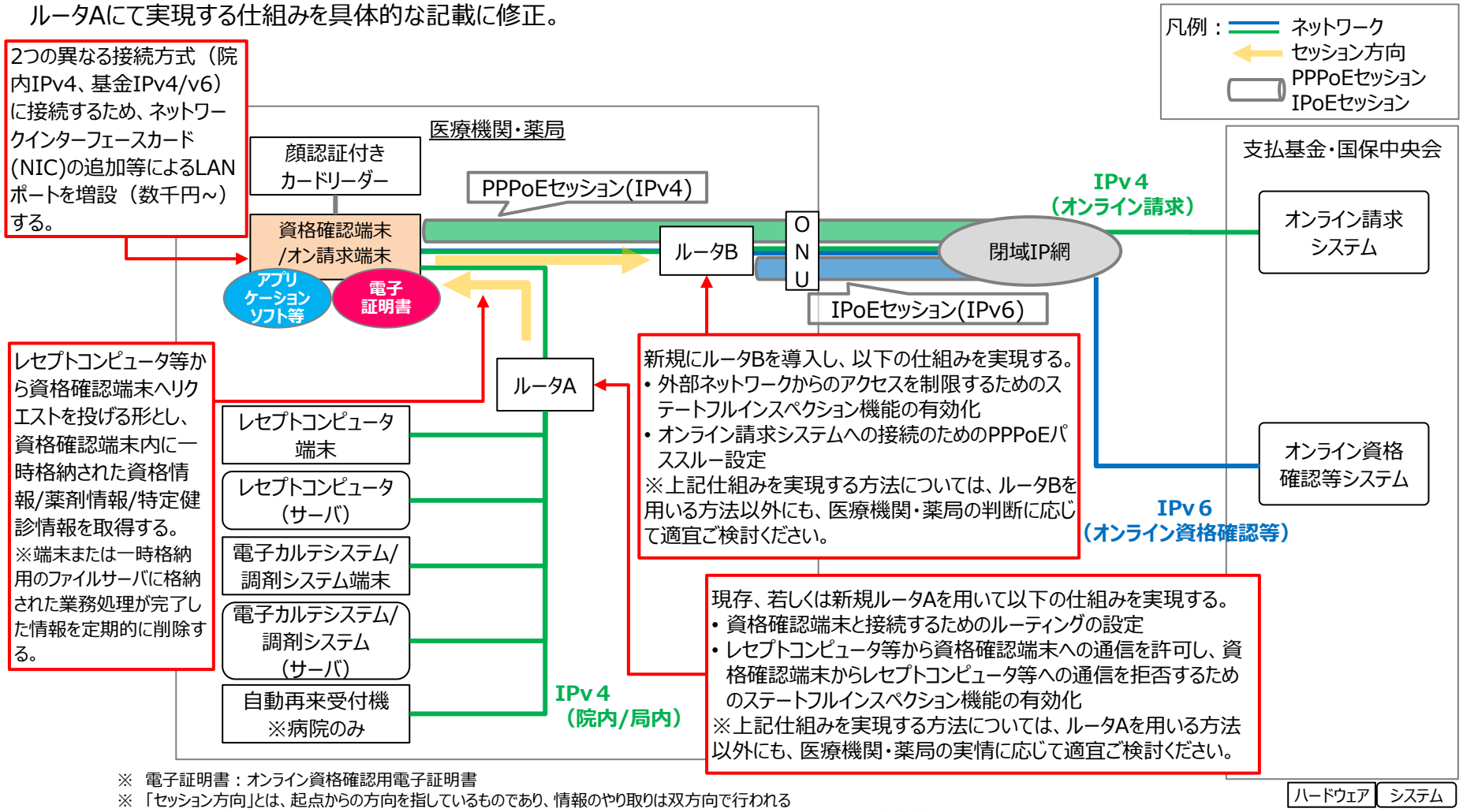
【技術解説書1.0版　図2.3.2-2、2-3　基本的な構成例（資格確認端末が１台のケース）（資格確認端末が複数台のケース）からの変更点】
- オンライン請求端末～ONUの間をHUBからルータBに変更。
- 資格確認端末内のソフトウェアファイアウォールによる外部ネットワークアクセス制御の対策をルータBで担うため、記載削除。
- ルータAにて実現する仕組みを具体的な記載に修正。



※　電子証明書：オンライン資格確認用電子証明書
※　「セッション方向」とは、起点からの方向を指しているものであり、情報のやり取りは双方向で行われる
※　IP-VPN回線業者によってはオンライン請求で利用しているPPPoEセッションを利用しIPv4接続方式でオンライン資格確認等システムへ接続する
※　資格確認端末に顔認証付きカードリーダーおよび汎用カードリーダーの両方を接続している場合マイナンバーカードによる資格情報照会は実施できないため、1台のみ接続する

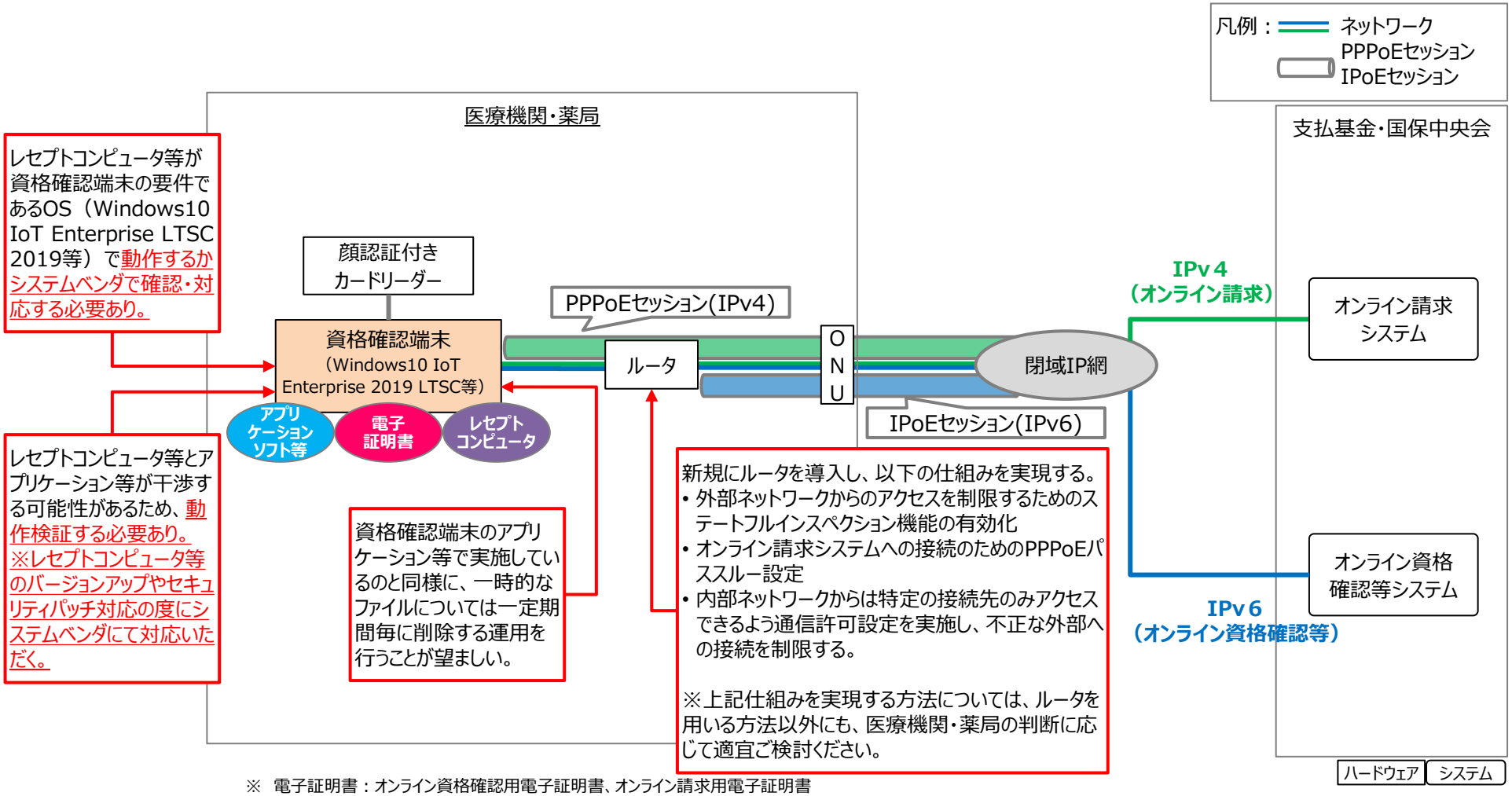
○導入後想定：オンライン請求と資格確認を一台の端末で実施する場合の構成例

【技術解説書1.0版　図2.3.2-4　オンライン請求未対応の施設がオンライン請求と併せて開始する場合の構成例からの変更点】
- オンライン請求端末～ONUの間をHUBからルータBに変更。
- 資格確認端末内のソフトウェアファイアウォールによる外部ネットワークアクセス制御の対策をルータBで担うため、記載削除。
- ルータAにて実現する仕組みを具体的な記載に修正。



※　電子証明書：オンライン資格確認用電子証明書
※　「セッション方向」とは、起点からの方向を指しているものであり、情報のやり取りは双方向で行われる
※　IP-VPN回線業者によってはオンライン請求で利用しているPPPoEセッションを利用しIPv4接続方式でオンライン資格確認等システムへ接続する
※　IPv6接続方式にて同一端末で「オンライン資格確認等システム」と「オンライン請求システム」を同時利用は、わずかに遅延が発生する可能性があるため、非推奨
　IPv4接続方式の場合は IP-VPN回線事業者に確認の上設定する
※　資格確認端末に顔認証付きカードリーダーおよび汎用カードリーダーの両方を接続している場合マイナンバーカードによる資格情報照会は実施できないため、1台のみ接続する

○導入後想定：資格確認端末にレセプトコンピュータ等の機能を搭載する場合の構成例

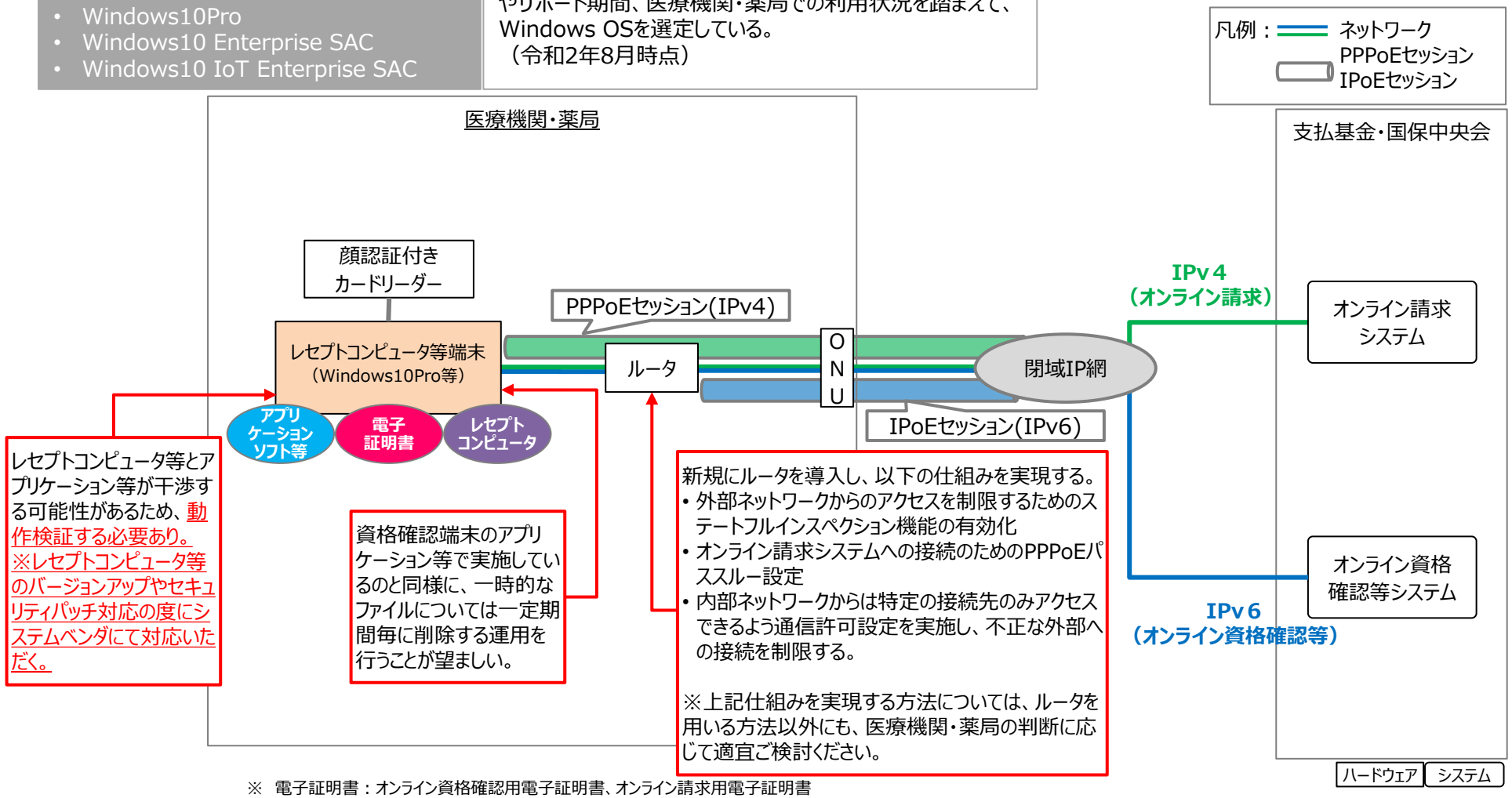


※ 電子証明書：オンライン資格確認用電子証明書、オンライン請求用電子証明書
※ レセプトコンピュータの構成によって、サーバ等を設置する構成もあり
※ 資格確認端末の要件であるOSとは、「資格確認端末において満たすべき要件」に示しているOSを指す
※ レセプトコンピュータの構成としてサーバ等を設置している場合、ルータから分岐して接続されるサーバやルータにてアクセス制限対策を行う
※ IP-VPN回線業者によってはオンライン請求で利用しているPPPoEセッションを利用しIPv4接続方式でオンライン資格確認等システムへ接続する
※ 資格確認端末に顔認証付きカードリーダーおよび汎用カードリーダーの両方を接続している場合マイナンバーカードによる資格情報照会は実施できないため、1台のみ接続する

○導入後想定：レセプトコンピュータ等端末に資格確認端末の機能を搭載する場合の構成例

資格確認端末において満たすべき要件以外のマイナンバーカード処理ソフト・オンライン資格確認等連携ソフトが動作する対象OS
- Windows10Pro
- Windows10 Enterprise SAC
- Windows10 IoT Enterprise SAC

＜補足＞
サポート対象OSについて、OSにおけるサポートライフサイクルやサポート期間、医療機関・薬局での利用状況を踏まえて、Windows OSを選定している。
（令和2年8月時点）



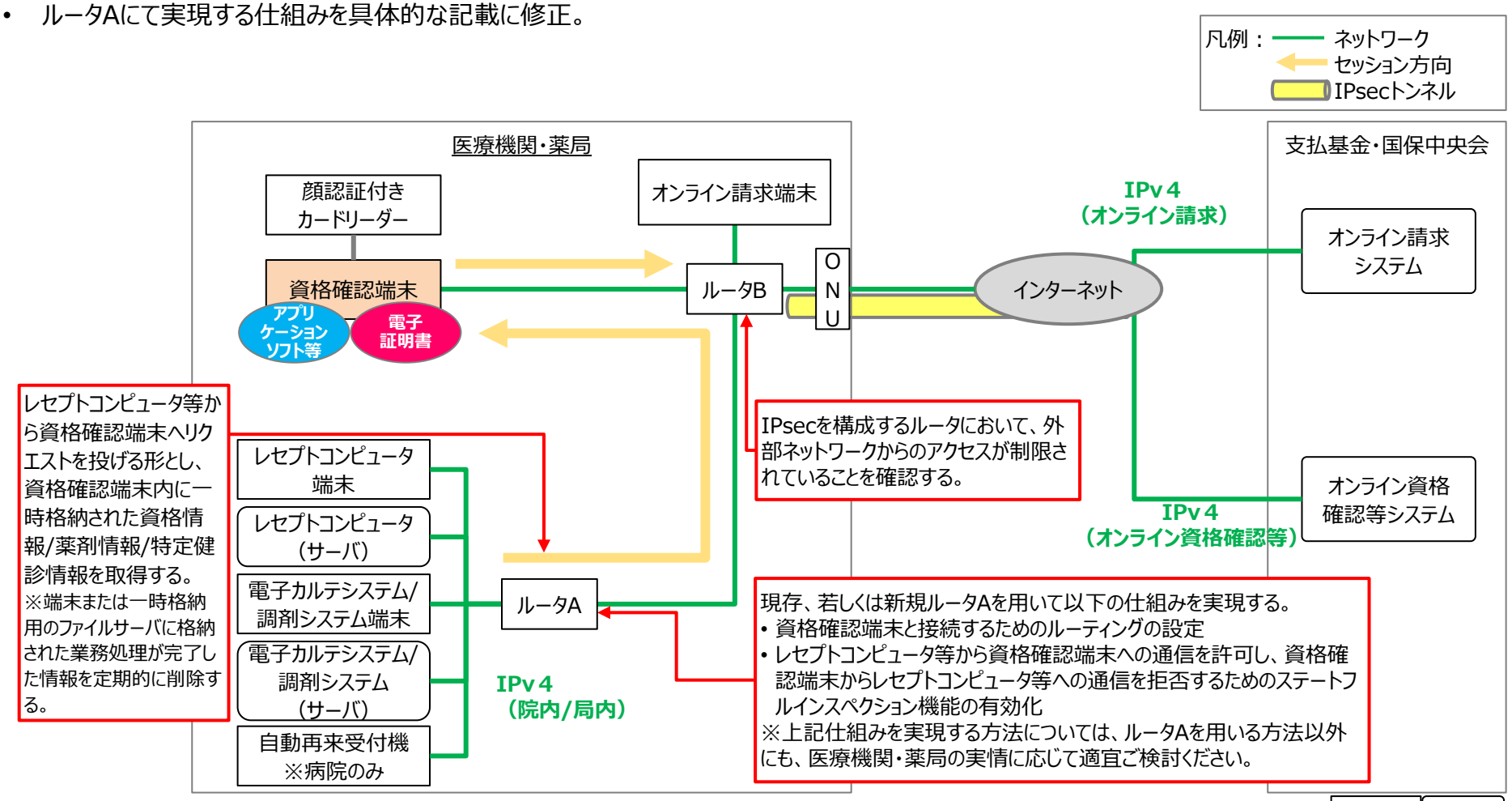
※ 電子証明書：オンライン資格確認用電子証明書、オンライン請求用電子証明書
※ レセプトコンピュータの構成によって、サーバ等を設置する構成もあり
※ レセプトコンピュータの構成としてサーバ等を設置している場合、ルータから分岐して接続されるサーバやルータにてアクセス制限対策を行う
※ IP-VPN回線業者によってはオンライン請求で利用しているPPPoEセッションを利用しIPv4接続方式でオンライン資格確認等システムへ接続する

IPsec+IKE
（ルータ型）

○導入後想定：基本的な構成例（資格確認端末が1台もしくは複数台のケース）

【技術解説書1.0版　図2.3.2-6、2-7　基本的な構成例（資格確認端末が１台のケース）（資格確認端末が複数台のケース）からの変更点】

- ルータ型であるため、オンライン請求端末～ONUの間をHUBからルータBに変更。
- 資格確認端末内のソフトウェアファイアウォールによる外部ネットワークアクセス制御の対策を現存するルータBで担うため、記載削除。
- 資格確認端末での通信接続方式がIPv4のみであり、通信経路の物理的対策は不要となったため、ネットワークインターフェースカードの追加を削除。
- ルータAにて実現する仕組みを具体的な記載に修正。

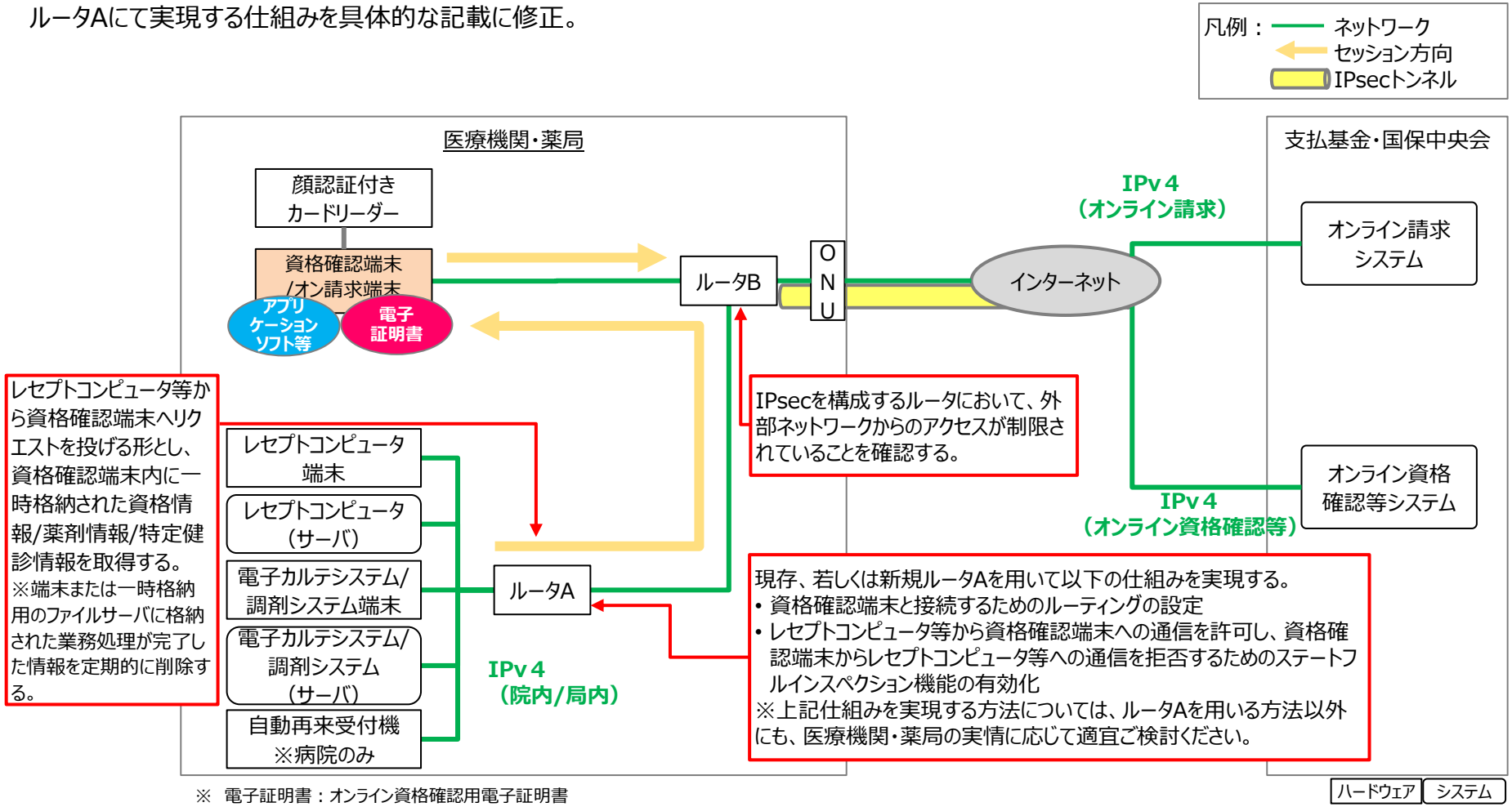


※　電子証明書：オンライン資格確認用電子証明書
※　「セッション方向」とは、起点からの方向を指しているものであり、情報のやり取りは双方向で行われる
※　資格確認端末に顔認証付きカードリーダーおよび汎用カードリーダーの両方を接続している場合マイナンバーカードによる資格情報照会は実施できないため、1台のみ接続する

○導入後想定：オンライン請求未対応の施設がオンライン請求と併せて開始する場合の構成例

IPsec+IKE
（ルータ型）

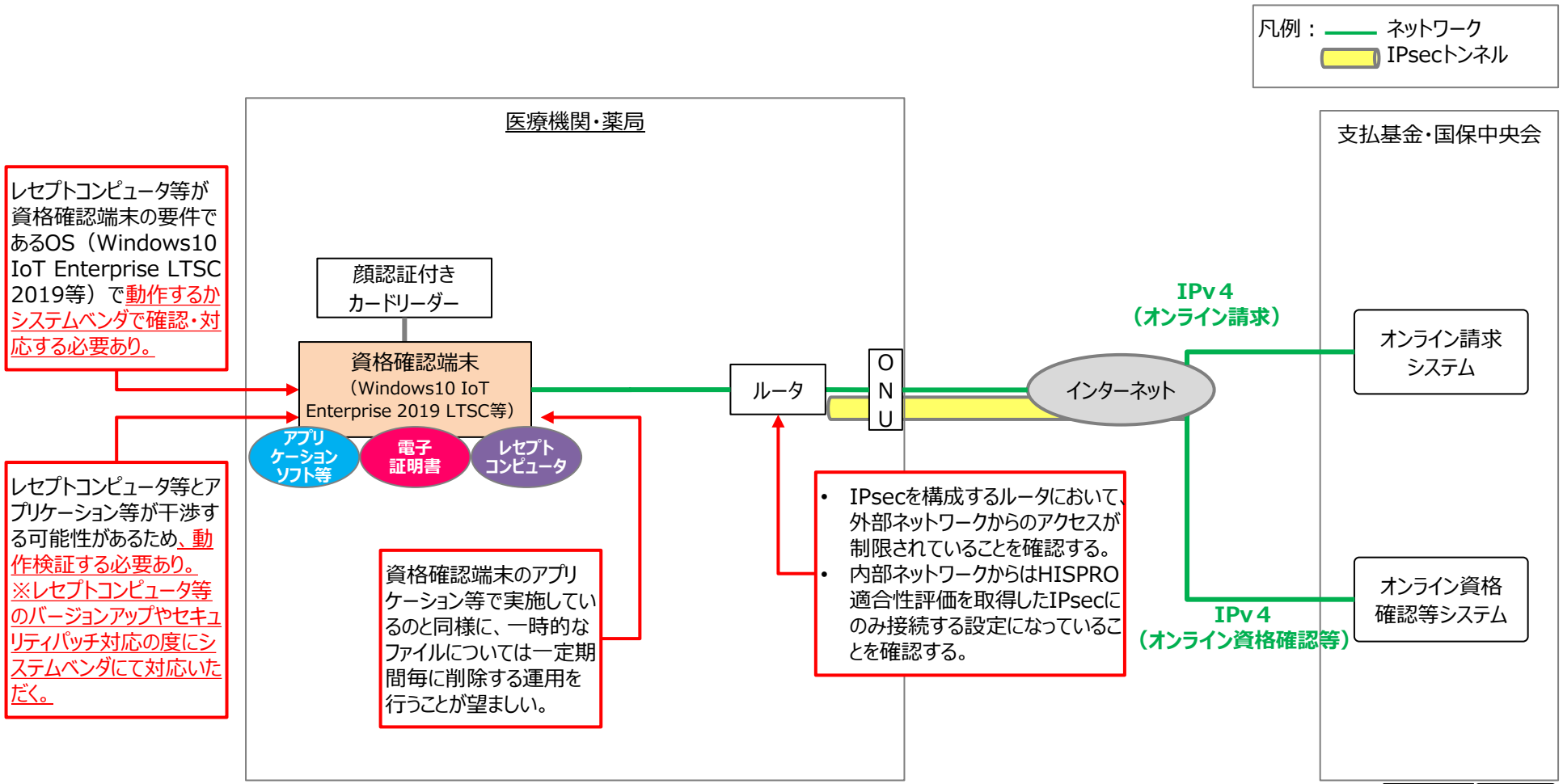
【技術解説書1.0版　図2.3.2-8　オンライン請求未対応の施設がオンライン請求と併せて開始する場合の構成例からの変更点】
- ルータ型であるため、オンライン請求端末～ONUの間をHUBからルータBに変更。
- 上記に伴い、ルータにて通信経路を振り分けるため、LANポート差し抜き運用の記載を削除。
- 資格確認端末内のソフトウェアファイアウォールによる外部ネットワークアクセス制御の対策を現存するルータBで担うため、記載削除。
- 資格確認端末での通信接続方式がIPv4のみであり、通信経路の物理的対策は不要となったため、ネットワークインターフェースカードの追加を削除。
- ルータAにて実現する仕組みを具体的な記載に修正。



※　電子証明書：オンライン資格確認用電子証明書
※　「セッション方向」とは、起点からの方向を指しているものであり、情報のやり取りは双方向で行われる
※　資格確認端末に顔認証付きカードリーダーおよび汎用カードリーダーの両方を接続している場合マイナンバーカードによる資格情報照会は実施できないため、1台のみ接続する

○導入後想定：資格確認端末にレセプトコンピュータ等端末の機能を搭載する場合の構成例

IPsec+IKE
（ルータ型）



※ 電子証明書：オンライン資格確認用電子証明書、オンライン請求用電子証明書
※ レセプトコンピュータの構成によって、サーバ等を設置する構成もあり
※ 資格確認端末の要件であるOSとは、「資格確認端末において満たすべき要件」に示しているOSを指す
※ レセプトコンピュータの構成としてサーバ等を設置している場合、ルータから分岐して接続されるサーバやルータにてアクセス制限対策を行う
※ 資格確認端末に顔認証付きカードリーダーおよび汎用カードリーダーの両方を接続している場合マイナンバーカードによる資格情報照会は実施できないため、1台のみ接続する

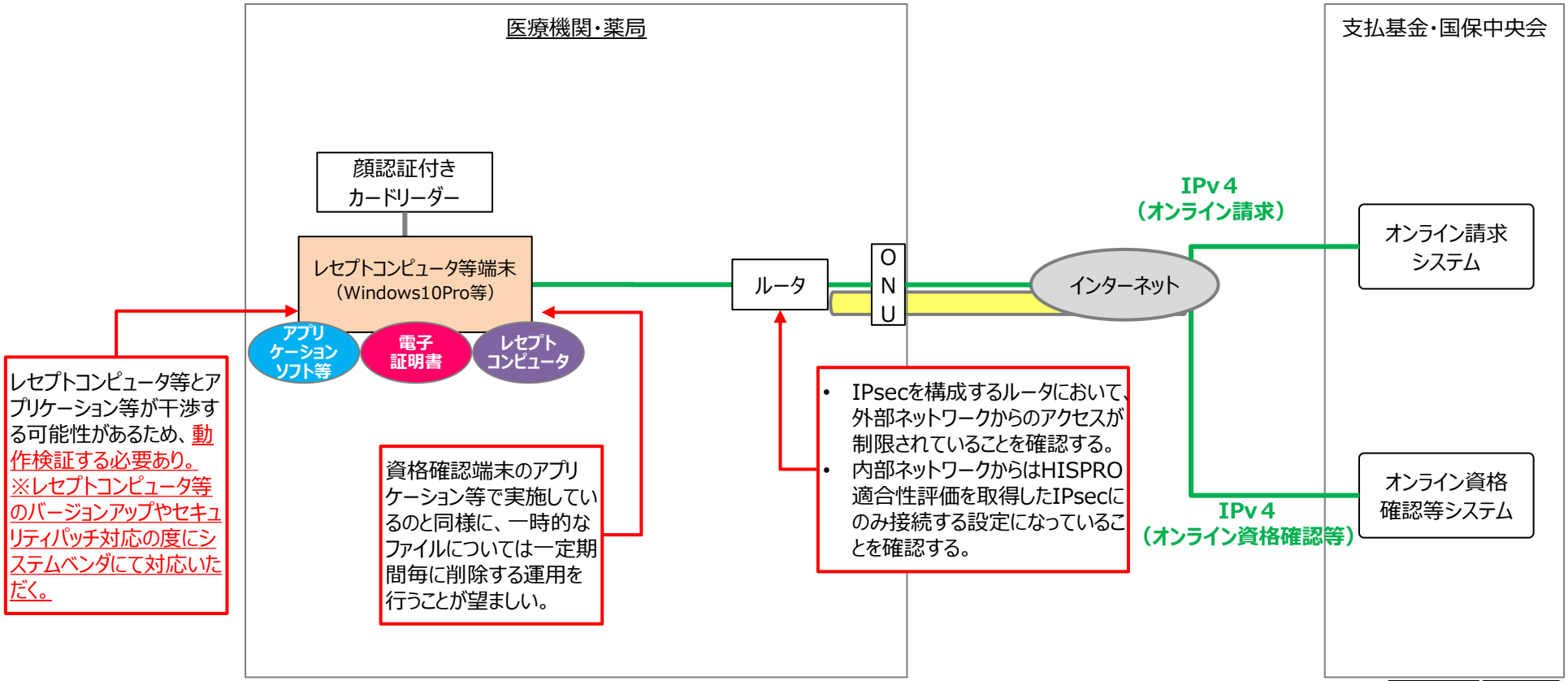
IPsec+IKE
（ルータ型）

○導入後想定：レセプトコンピュータ等端末に資格確認端末の機能を搭載する場合の構成例

資格確認端末において満たすべき要件以外のマイナンバーカード処理ソフト・オンライン資格確認等連携ソフトが動作する対象OS
- Windows10Pro
- Windows10 Enterprise SAC
- Windows10 IoT Enterprise SAC

＜補足＞
サポート対象OSについて、OSにおけるサポートライフサイクルやサポート期間、医療機関・薬局での利用状況を踏まえて、Windows OSを選定している。
（令和2年8月時点）

凡例：ネットワーク
IPsecトンネル

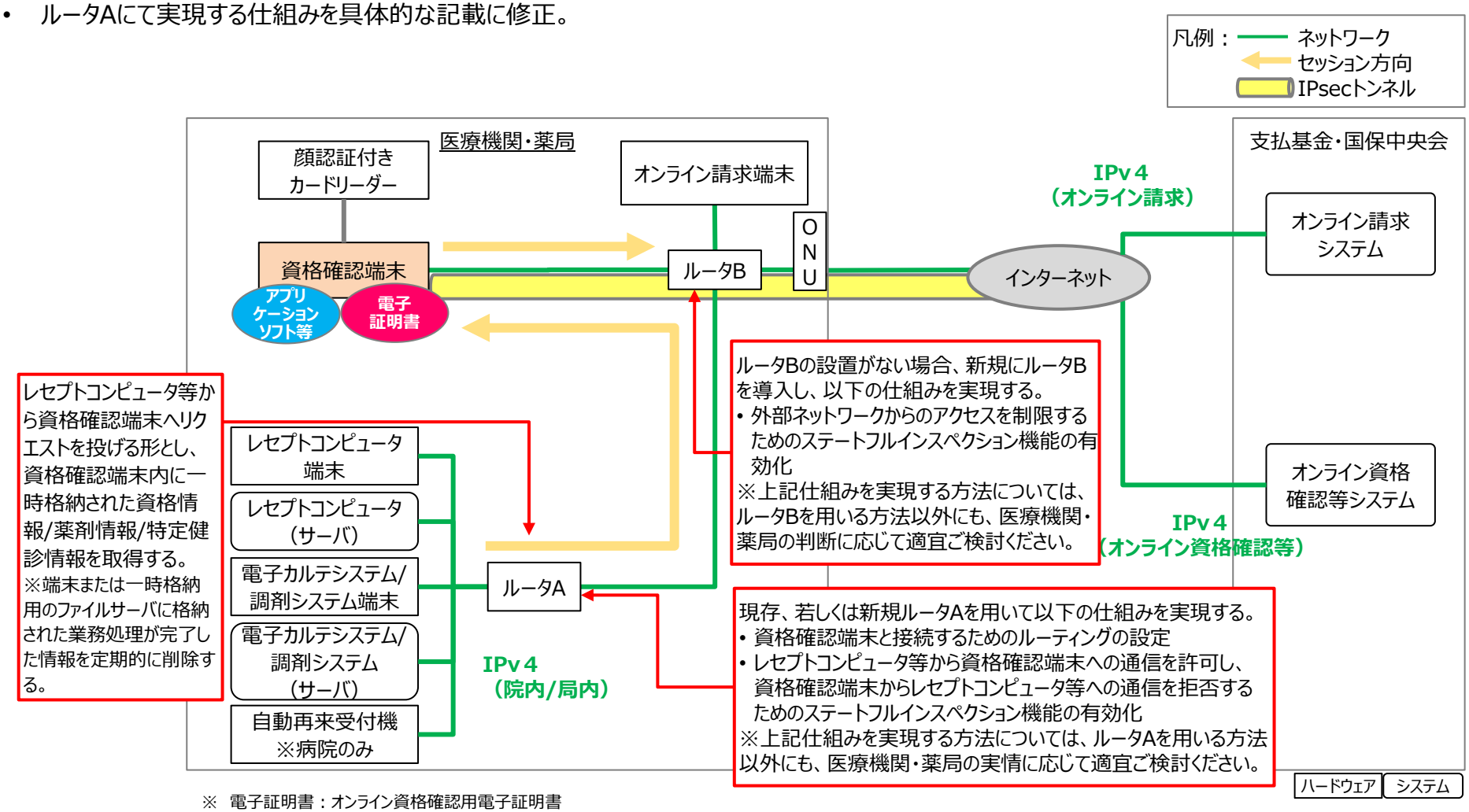


※ 電子証明書：オンライン資格確認用電子証明書、オンライン請求用電子証明書
※ レセプトコンピュータの構成によって、サーバ等を設置する構成もあり
※ レセプトコンピュータの構成としてサーバ等を設置している場合、ルータから分岐して接続されるサーバやルータにてアクセス制限対策を行う

○導入後想定：基本的な構成例（資格確認端末が1台もしくは複数台のケース）

IPsec+IKE
（クライアント型/PCキー型/
USBキー型）

【技術解説書1.0版　図2.3.2-6、2-7　基本的な構成例（資格確認端末が１台のケース）（資格確認端末が複数台のケース）からの変更点】
- ルータ型であるため、オンライン請求端末～ONUの間をHUBからルータBに変更し、実現する仕組みを具体的に記載。
- 資格確認端末内のソフトウェアファイアウォールによる外部ネットワークアクセス制御の対策を現存するルータBで担うため、記載削除。
- 資格確認端末での通信接続方式がIPv4のみであり、通信経路の物理的対策は不要となったため、ネットワークインターフェースカードの追加を削除。
- ルータAにて実現する仕組みを具体的な記載に修正。



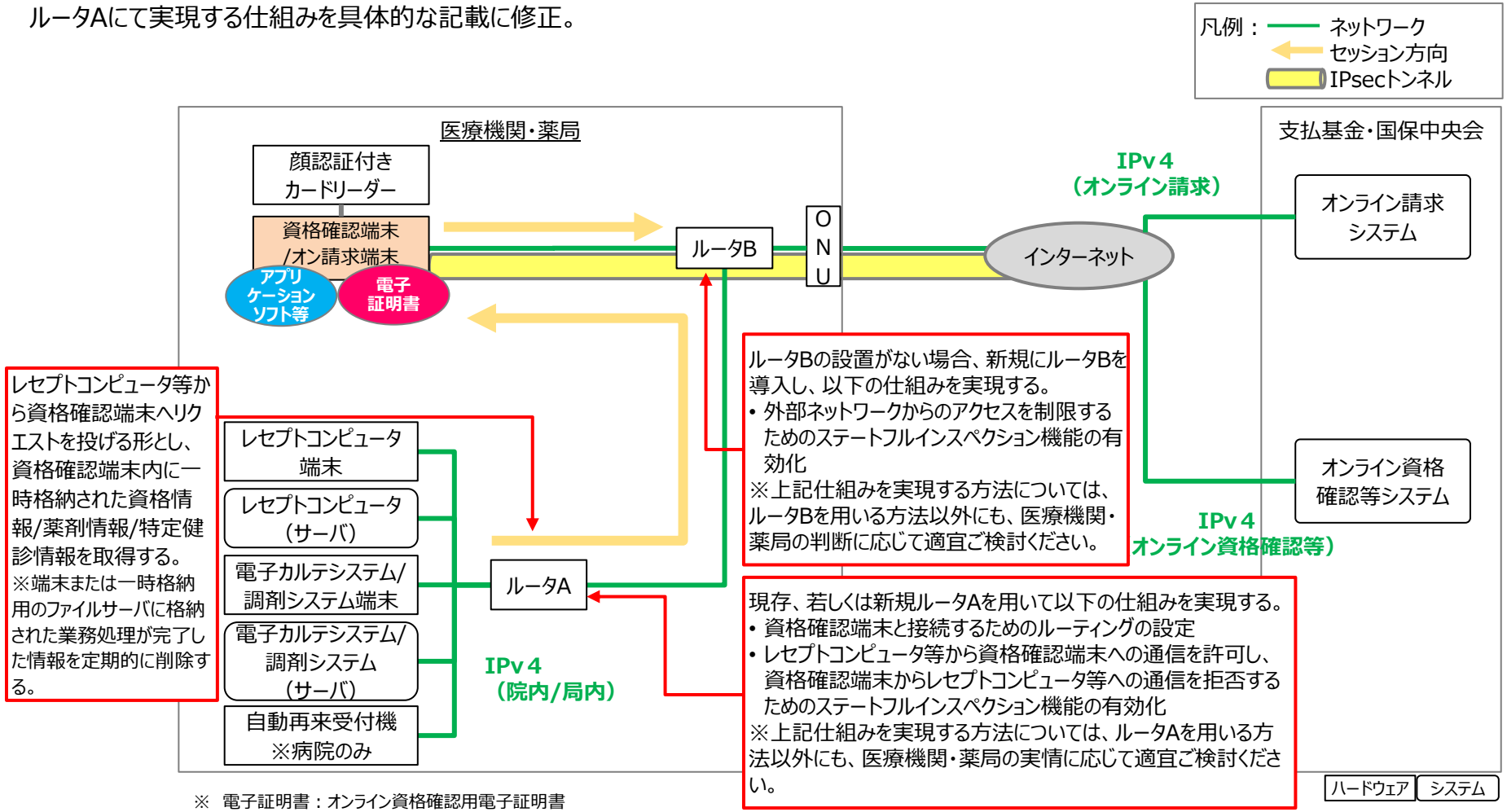
※　電子証明書：オンライン資格確認用電子証明書
※　「セッション方向」とは、起点からの方向を指しているものであり、情報のやり取りは双方向で行われる
※　資格確認端末に顔認証付きカードリーダーおよび汎用カードリーダーの両方を接続している場合マイナンバーカードによる資格情報照会は実施できないため、1台のみ接続する

○導入後想定：オンライン請求未対応の施設がオンライン請求と併せて開始する場合の構成例

IPsec+IKE
（クライアント型/PCキー型/
USBキー型）

【技術解説書1.0版　図2.3.2-8　オンライン請求未対応の施設がオンライン請求と併せて開始する場合の構成例からの変更点】

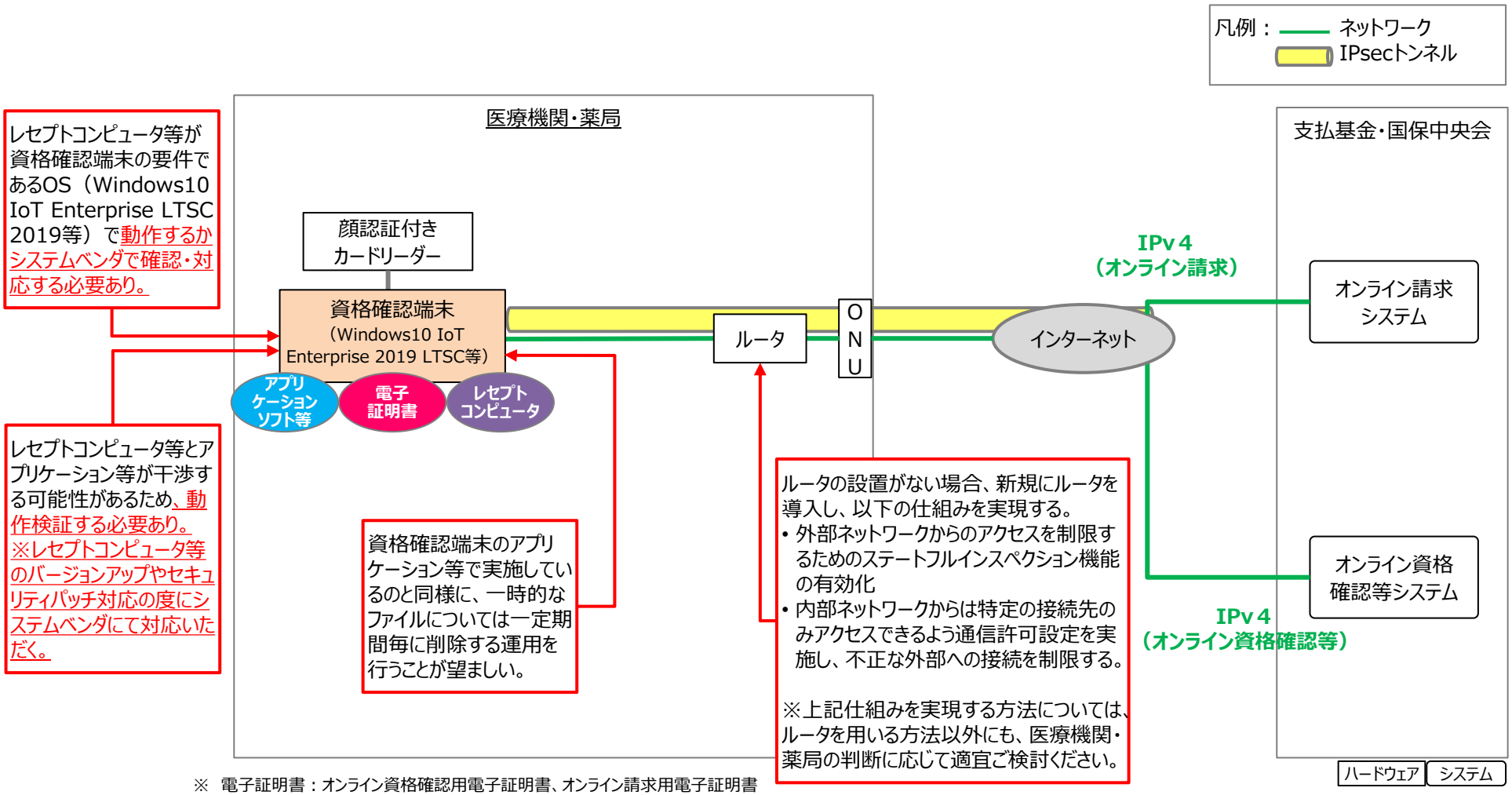
- ルータ型であるため、オンライン請求端末～ONUの間をHUBからルータBに変更し、実現する仕組みを具体的に記載。
- 上記に伴い、ルータにて通信経路を振り分けるため、LANポート差し抜き運用の記載を削除。
- 資格確認端末内のソフトウェアファイアウォールによる外部ネットワークアクセス制御の対策を現存するルータBで担うため、記載削除。
- 資格確認端末での通信接続方式がIPv4のみであり、通信経路の物理的対策は不要となったため、ネットワークインターフェースカードの追加を削除。
- ルータAにて実現する仕組みを具体的な記載に修正。



※　電子証明書：オンライン資格確認用電子証明書
※　「セッション方向」とは、起点からの方向を指しているものであり、情報のやり取りは双方向で行われる
※　資格確認端末に顔認証付きカードリーダーおよび汎用カードリーダーの両方を接続している場合マイナンバーカードによる資格情報照会は実施できないため、1台のみ接続する

○導入後想定：資格確認端末にレセプトコンピュータ等端末の機能を搭載する場合の構成例

IPsec+IKE
（クライアント型/PCキー型/
USBキー型）



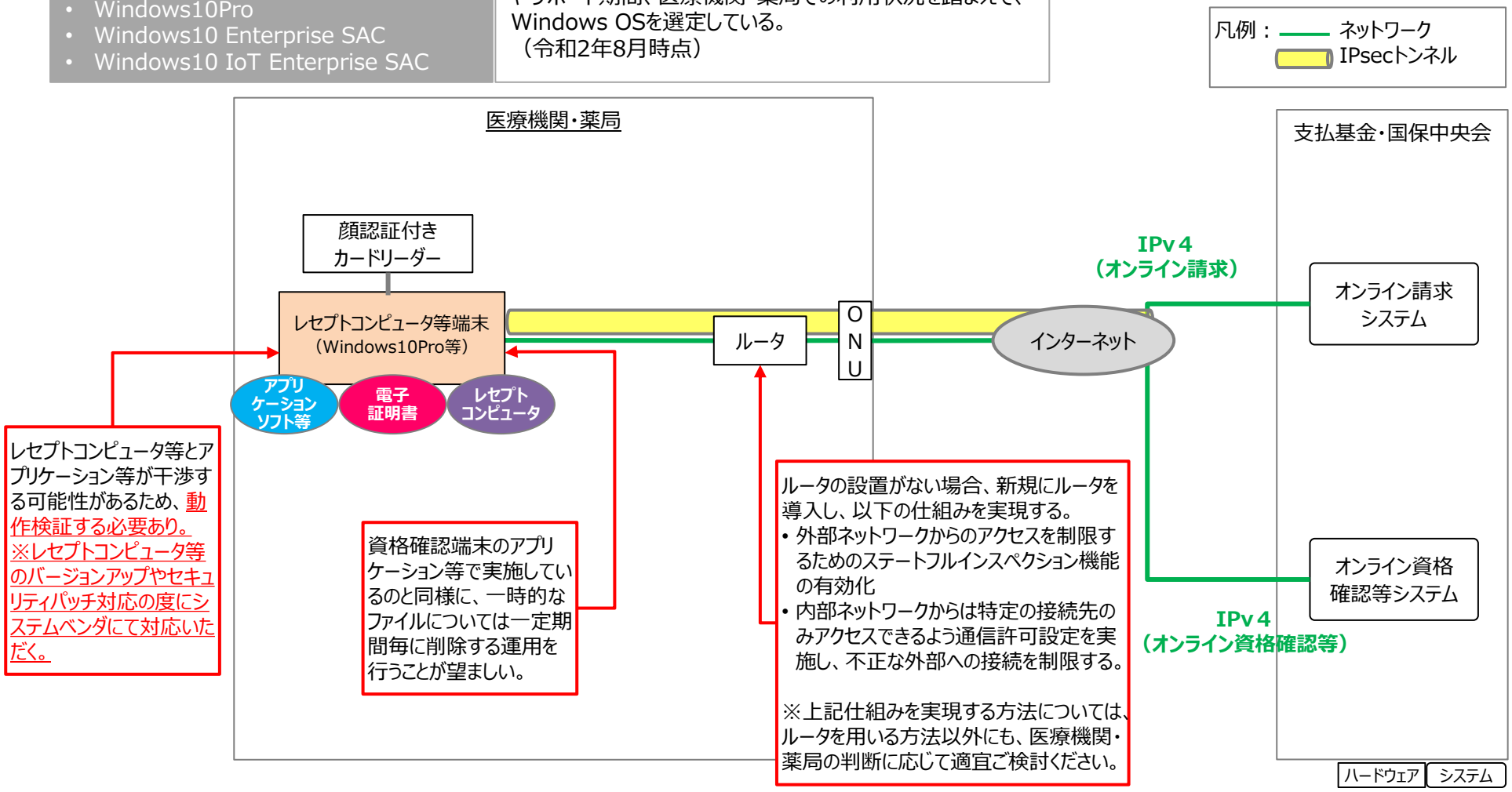
※ 電子証明書：オンライン資格確認用電子証明書、オンライン請求用電子証明書
※ レセプトコンピュータの構成によって、サーバ等を設置する構成もあり
※ 資格確認端末の要件であるOSとは、「資格確認端末において満たすべき要件」に示しているOSを指す
※ レセプトコンピュータの構成としてサーバ等を設置している場合、ルータから分岐して接続されるサーバやルータにてアクセス制限対策を行う
※ 資格確認端末に顔認証付きカードリーダーおよび汎用カードリーダーの両方を接続している場合マイナンバーカードによる資格情報照会は実施できないため、1台のみ接続する

○導入後想定：レセプトコンピュータ等端末に資格確認端末の機能を搭載する場合の構成例

IPsec+IKE
（クライアント型/PCキー型/
USBキー型）

資格確認端末において満たすべき要件以外のマイナンバーカード処理ソフト・オンライン資格確認等連携ソフトが動作する対象OS
- Windows10Pro
- Windows10 Enterprise SAC
- Windows10 IoT Enterprise SAC

＜補足＞
サポート対象OSについて、OSにおけるサポートライフサイクルやサポート期間、医療機関・薬局での利用状況を踏まえて、Windows OSを選定している。
（令和2年8月時点）



※ 電子証明書：オンライン資格確認用電子証明書、オンライン請求用電子証明書
※ レセプトコンピュータの構成によって、サーバ等を設置する構成もあり
※ レセプトコンピュータの構成としてサーバ等を設置している場合、ルータから分岐して接続されるサーバやルータにてアクセス制限対策を行う